

彦名通信

COMMUNICATION MAGAZINE NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN), YONAGO COLLEGE



学校見学会



高専祭野外ライブ



ロボコンAチーム



ロボコンBチーム

Index

高専祭	2	課外活動報告	10
特別行事について	3	リケジョ	10
クラス便り		衛星打ち上げ	10
1年生遠足・高専祭	3～4	ロボコン中国大会・プロコン全国大会	11
2年生オープンファクトリー他	5～6	学校見学会	12
3年生工場見学他	6～7	新型コロナウイルスワクチン職域接種	12
4年生インターンシップ	8～9	としょぶらり	13～20

高専祭を開催しました

学生会長 松本 祐也

今年度の高専祭は昨年度同様、規模縮小、外部禁止の形で開催しました。昨年度は、全てが初めてで、上手くいかないことも多くありましたが、今年度はその反省を生かして学生会執行部を中心として準備が進められました。結果として、とても良い高専祭が開催できたと思っています。特に、例年の高専祭の目玉であった軽音楽同好会のライブを一年越しに行い、とても盛り上がったことが個人的にとっても嬉しかったです。その他にも、各クラスの企画や、新しい試みであるキッチンカーなど、とても素晴らしかったと感じています。ご協力頂いた学生、先生方、企業の皆様、心からお礼を申し上げます。コロナが収まってきつつある中でも、満足のいくものを作りづらい状況を歯がゆく思いますが、その中で、学生全員が楽しめる高専祭を年々良くしながら作り上げ、そのバトンを次の代へと繋げていくことを大事にしていきたいと考えています。来年、世の中がどのようなになっているか想像もつきませんが、コロナ禍での経験を生かして、より素晴らしいものに発展していくことを願っています。

高専祭実行委員長 櫃田 英治

今年度の高専祭では、当初できると思われていた飲食関係、学外者の入場等は昨年に引き続き禁止となっていました。5月に予定されていた体育祭が延期となり、高専祭の開催自体も危ぶまれていましたが、無事に開催することができました。2年連続の規模縮小で、学生からも「飲食模擬店がしたい」「軽音のライブがしたい」等の意見が多く寄せられました。我々、学生会一同は「学生達の思い出になる高専祭にしたい」という気持ちで、昨年できなかったクラス企画、キッチンカーの導入等の新しい企画にチャレンジし、高専祭期間中に多くの笑顔を見ることができました。

例年と違う高専祭、飲食模擬店のない高専祭など、〇〇のない高専祭というイメージがなかなか強く、取れないかもしれません。しかし、日々減っていくコロナ感染者数、大多数の人が行ったワクチン接種、こういった積み重ねが来年度の高専祭を盛り上げる鍵になっていくと思います。

なかなか完璧とはいきませんが、十分に盛り上がった高専祭だったと感じました。学生会を信じて盛り上げてくれたみなさま、本当にありがとうございました！



学生会員一同



旧ボイラー室(科展)



コスプレファッションショー



クラス企画

特別行事について

キャリア支援室長 前原 勝樹

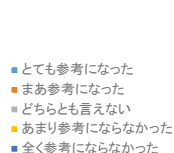
特別行事では、クラスの親睦を図ることに加え、キャリア教育の一環として、1年生では遠足、2年生では地元企業を知るオープンファクトリー、3年生では工場見学旅行、4年生ではインターンシップ報告会、5年生では米子市長を招いてキャリア講演会を実施致しました。コロナ禍にあつて、1年生の遠足では、レクリエーションに制約があったことから企業見学を取り入れた内容とし、2・3年生では、地元企業見学とオンライン見学等を実施しました。学生の皆さんが、就職知識・経験を身につけ、将来に活かしてくれることを望みます。ご協力いただきました企業、自治体の関係者のみなさまにお礼申し上げます。

1年生遠足の協力企業	
1	イナテック鳥取
2	TVC
3	山陰ビデオシステム
4	守谷刃物研究所
5	鳥取最上インクス

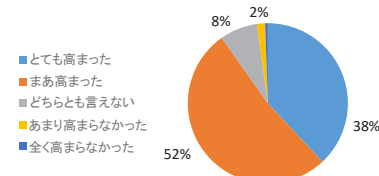
2年生オープンファクトリーの協力企業	
M	秦精工、キグチテクニクス、日立金属安来製作所、リコーインダストリアルソリューションズ
E	日本マイクロシステム、サテライトコミュニケーションズネットワーク、八雲ソフトウェア
D	戎屋化学工業、ケイズ、JUKI松江、I-PEX鳥根
C	三光、ニッポン高度紙工業、エスジーズ
A	フィディア、ミヨシ産業、日新

3年生工場見学旅行の協力企業等	
M	LIXIL、京セラ、中国電力
E	富士電機、山陰酸素工業、出雲村田製作所
D	産業技術総合研究所、菱南電装、スター精機
C	第一三共バイオテック、神戸天然物化学
A	鳥取県庁、大林組、鳥取CLT

進路を考える上で参考になりましたか？



地元企業への理解は高まりましたか？



2年生オープンファクトリー参加学生アンケート

クラス便り 1年生

1年生の10月 遠足・高専祭

1年学年主任 教養教育部門 川邊 博

遠隔授業明けすぐの遠足と高専祭は、1年生が待ちに待った初の学校行事でした。今年の遠足は、クラスレクリエーションに企業見学を加えた初めての試みで、企業内部を直接説明付きで見るという貴重な機会となりました。一日の日程は密でしたが、企業現場の緊張感と自然の中での親睦によって確認した一体感で、気持ちの中でも密な日になったのではないのでしょうか。さらに、高専祭では参加者が制限され、飲食模擬店めぐりの食べ歩きの楽しさはなくても、クラス企画の会場内は仲間と特別な時間を共有する笑顔で溢れていました。クラス一人一人の距離を縮める10月でした。



高専祭クラス企画

1年1組

高専祭を通して

赤路 素春

1組は高専祭を通して、クラスの多くの人と関わり仲を深めることができました。前期は、なかなか関わる機会がなくクラスの中にまだ壁があったように思います。しかし高専祭に向けて準備していく中で、お互いに助け合い協力していくことで、多くの人と関わることができました。分からない所を教えあったり、みんなで放課後遅くまで残って作業をしたりするなどいい雰囲気での準備ができたので充実した高専祭期間になりました。もっと関わる機会を増やしていき楽しいクラスにしていきたいです。



1-1高専祭クラス企画

1年2組

遠足行事を終えて

足立 凧

私はこの遠足で楽しく、学びのある時間を過ごせたと思います。企業見学では普段見られないような設備や仕事現場を見ることができ、働くことの大変さや仕事の雰囲気を間近で実感できました。また、高専OBの方々から今やっておくべきことや将来についてのお話しをしていただき、とてもためになったなと思います。そして企業見学後の花回廊やみるくの里では、いろいろなところを友達と回ってより仲を深めることができたと思います。もう残り半年を切った今年度ですが、この遠足で深まった知識や仲間を大切に生活していきたいと思いました。



サルビアを背にした笑顔(花回廊にて)

1年4組

クラス遠足

入江 穂香

4組は遠足で「守谷刃物研究所」、「足立美術館」、「安来節演芸会館」の3か所を訪れました。中でも印象に残っているのは足立美術館です。日本一といわれている庭園を実際に見ることができて嬉しかったです。当日は天候が晴れていたこともあり、より美しい庭園を見ることができました。安来節を見たのは初めてだったのですが、中でも「どじょうすくい」が興味深かったです。演者の方が一言も発していないにも関わらず、仕草や表情のみで観客側には状況がしっかりと伝わっていることがすごいと思いました。地元の伝統芸能を見ることができて、いい機会になりました。



守谷刃物研究所の玄関前にて

1年3組

高専祭実行委員になって

林 生麗

高専に入る前から高専祭が面白い事は聞いていて、初めての高専祭に沢山関わりたいと思い、私は高専祭実行委員になりました。規模が縮小されてはいましたが、充実した時間を過ごすことができ、他のクラスや学年の方と関わる機会にもなったので良かったです。

丸山 未夏

初めての高専祭で実行委員になって、クラスの出し物についてみんなで話し合い、案をまとめるのが大変でした。テーマを決めて制作チームごとに話し合い、放課後などを使って積極的に作業を進められたので、クラスの団結力が上がったなと嬉しく思いました。



クラス企画の緣日 射的の様子

1年5組

高専祭を終えて

立林 侑莉

私にとって初めての高専祭でした。私たちのクラスは公式LINEを利用した謎解き脱出ゲームをしました。準備期間は大変だったけれど楽しさもあり、あっという間でした。当日はとてもたくさんの方が来てくださって、みんなで頑張って準備してよかったなと強く思いました。他のクラスの企画は様々な体験をすることができ、2日間ともに(心から)楽しむことが出来ました。コロナなどで制限のある中、ここまで良い思い出を作ることができたので良かったです。



高専祭の様子

クラス便り2年生

オープンファクトリー・高専祭を振り返って

2年学年主任 電気電子部門 奥雲 正樹

10月14、15日の特別行事として、2年生はオープンファクトリーを行いました。今年度も新型コロナの影響を受け日帰りでの実施となりましたが、実際に地元企業を見学することができ、学生にとっては初めての企業見学であることもあり、将来の就職活動へのよい機会となりました。ご多忙の中オープンファクトリーにご協力いただきました企業・団体の皆様にお礼申し上げます。

また、10月29、30日には高専祭が実施されました。各クラスで様々な催し物、模擬店などを企画し、また当日は天候にも恵まれ、多くの学生が楽しんでいました。



オープンファクトリーの様子

電気情報工学科

高専祭

西岡 七彩

私たちのクラスは射的を行いました。当日は想定より沢山のお客さんが来て接客が追いつかなくなったり、コルク銃が壊れてしまったりなどハプニングが多々ありましたが、クラスみんなの協力が無事に終わることができてよかったです。そして、今回の高専祭を通してみんなのことをより知ることができました。

今年も新型コロナの影響で規模を縮小して行われたので、来年は一般の方の参加や飲食店ができるようになればいいと思います。



射的の様子

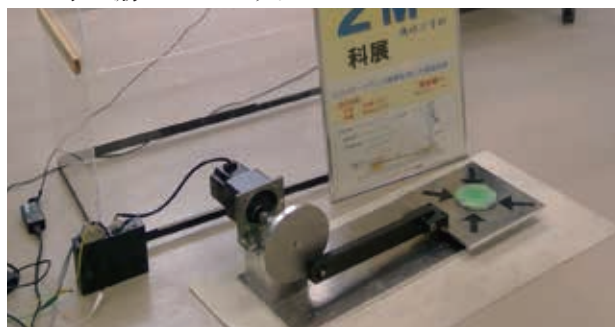
機械工学科

科展の製作を終えて

中本 大翔

夏季休業中、担任の先生から高専祭の企画について連絡があり、私と数名の学生で「スライダークランク機構を用いた振動発生装置」の製作を行うことになりました。簡単な機構ですが製作には苦勞し、特に細かな所に難しさを感じました。作り始めは設計書がないことを知り驚きつつも先生方に教えてもらったり、私たちが簡単な設計図を描いたりして考えながら形にしていきました。作っていくうちに機構の仕組みや様々な加工技術などの多くの知識を学ぶことができました。

今回の製作で学んだことや経験を自らの糧として、今後の勉強やロボコンに役立て、また様々なことを学び励みたいです。



製作した装置

電子制御工学科

全力の2D クラス企画「占い」

横山 大登

今回の文化祭が初めてのクラス企画をしたということもあり、最初はクラス全体のまとまりが無くてバラバラの状態でした。しかし、意欲的な人たちが中心となったおかげで、無事に準備を終えることができました。文化祭が始まってからは、多くの人に来てくれたおかげで行列ができるほど大盛況になりました。

「占い」に来てくれた人からは凄く好評で、「占いが本当に当たってる」というような声が多く聞こえました。大変な準備でしたが喜んで帰って行くところを見ると「本当にやってよかった」と思えました！大変な思いや嬉しい思いも経験した文化祭でしたが、印象に残る文化祭になりました。



「占い」企画の様子

物質工学科

オープンファクトリー・高専祭を終えて

山田 諒折

オープンファクトリーは、1日目は2社とも校内での説明会でした。午前中の三光による会社説明では、社員の方の率直な意見やアドバイスなど様々な工夫があり、楽しい時間を過ごせました。2日目は、エスジーズに訪問させていただきました。そこで、環境調査に関わるいろいろな仕事を紹介していただき、将来の自分の働く姿が想像できました。

高専祭では「ぴーすおぶえんため」と題して、クラスで3つの店を出しました。それぞれ事前に計画を立てたおかげで無事成功したという手ごたえが得られました。来年は、今年以上の企画を計画、実施できるようにしたいと思います。



オープンファクトリーの様子

建築学科

初めての出し物

濱崎 大志

去年はコロナウイルスの影響でできなかったお化け屋敷を2年生になってクラスでやることになりました。最初はとても楽しみでしたが、いざ準備をしてみるとたくさんの作業の連続でとても大変でした。実行委員の人は決めることがたくさんあってもっと大変だったと思います。でも皆で頑張って大盛況で終わる事ができました。クラス全員で取り組む行事で1番力が入っていて、これまでで1番まとまりを感じました。それが1番嬉しかったです。私自身はお化け役をたくさんやらせて貰って人を楽しませることの楽しさを感じることができ、とても良い経験になりました。



高専祭お化け屋敷の準備の様子

機械工学科

有意義な特別日課

伊藤 直人

一日目は、LIXILと京セラをオンライン見学しました。どちらも大きな会社で事業内容については多少なりとも知っていましたが、機械工学との関連はあまりないと考えていました。しかし、話を聞くにつれて、普段の授業で習っていることが実際の設計・製造の現場で使われていることを知り、改めて日頃の勉強を疎かにしてはいけないと思いました。

二日目は、原子力発電所と原子力館へ行きました。発電所見学後、米子高専OBの方々から、将来の進路に役立つ高専時代の過ごし方について、いろいろとアドバイスをいただきました。とても有意義な二日間でした。



島根原子力館での集合写真

クラス便り3年生

工場見学旅行と高専祭

3年学年主任 建築デザイン部門 西川 賢治

昨年度に続きコロナ禍で迎えた今年度の工場見学旅行は、オンライン見学1日と校外企業見学1日の2日間の日程で実施しました。昨年度は全面中止となった校外企業見学ですが、今年度は宿泊なしの日帰り、見学先は鳥取・島根両県に限るという制限を設けての再開となりました。各学科は今回決められた制限のなかでも、この2日間が学生たちにとって有意義な学習機会となるよう計画を進め、この度無事に終えることができました。

高専祭は今年度も模擬店なしでの実施となりましたが、各クラスは学生が楽しめるようなクラス企画を計画して高専祭を盛り上げました。



工場見学旅行の様子(3A)

電気情報工学科

暮らしを電気で支える

立林 一真

今年も例年とは異なり、一部遠隔で工場見学旅行を行いました。実際に職場を見学したいという気持ちもありましたが、今回の工場見学旅行で電気の仕事の幅広さや具体的な仕事内容などについて多く学ぶことができ、とても良い機会となりました。

実際に企業の方々や米子高専のOBの方々のお話を聞いていく中で、電気という分野では、半導体やコンデンサーなど日常生活では目に見えないようなところから人々の生活を手助けしていることを知りました。今回学んだことを活かして、今後自分がどう人々の暮らしにいい影響をもたらせるかを考え、将来につなげていこうと思いました。



山陰酸素工業の見学の様子

電子制御工学科

頑張った高専祭

山田 裕貴

今回はコロナ禍の影響もあり本来の高専祭よりも規模を縮小して開催されました。しかし、去年の高専祭とはちがいで、今回は飲食以外で各クラスでの企画が実現できました。正直、クラスで企画を行うための準備が大変でした。前日の準備日になってみないとわからないことも多く、クラスのみならず試行錯誤しながら頑張りました。協力してくれたクラスのみならず感謝です。高専祭当日は各クラスでの出し物や、展示、学生会の企画やライブでみんながそれぞれ楽しめたと思います。来年からは本来の高専祭の盛り上がりに戻ればいいなと思っています。



自信作の仮面ライダー

物質工学科

医薬品の製造の背景を知れた見学

長濱小次郎

1日目は第一三共バイオテックの方からお話を聞かせていただきました。ワクチン製造を行なっているということで、今の世の中でワクチンが重要視されている中、どのように製造を行なっているかを教えていただきました。

2日目は神戸天然物化学出雲工場を見学させていただきました。こちらも医薬品の原薬の製造を行なっていて、製造の工程やできたお薬が安全なのかを分析する過程など様々なことを教えていただきました。

どちらのお話も物質工学科に入っている者として興味深く、私たちの身近に迫った将来の選択にとっても参考になりました。



神戸天然物化学での集合写真

建築学科

2日間で学んだこと

鐵本 怜士真

この2日間を通して、CLT(直行集成板)とは何か、どうやって製造され、どのようにして使われているのかがわかりました。特にCLTの製造工場で、大きなパネルを作るのに大きな丸太を必要としないことに驚いたのと、大林組さんが国内初11階建て高層純木造耐火建築物に取り組みされているのを知り、私が想像している1~3階の木造建築の概念を大きく覆されたのが印象に残っています。CLTによって小さな木材の需要が増えたり、今まででは考えられなかった木造の高層化が可能になったりと、CLTは木材の可能性を広げる素晴らしい材だと感じました。



講演の様子

クラス便り 4年生

令和3年度のインターンシップについて

4年学年主任 機械システム部門 権田 岳

本校では、夏季休業期間中に本科4年生と専攻科1年生がインターンシップに参加をしていますが、今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けました。インターンシップ受入可能のご回答については、昨年度と同等の340件以上の企業・団体からいただきましたが、緊急事態宣言が多くの都市で延長されたこともあり、対面でのインターンシップが実施困難なケースになってしまった企業・団体も多く、オンライン形式でのインターンシップに切り替えた例も見られました。このようにコロナ禍で大変ななか、様々な創意工夫をこらし、有意義なインターンシップの実現にご協力くださった企業、団体の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

機械工学科

インターンシップ参加報告

森 拓真

私は以前より製鉄業に興味があったため、その現場の雰囲気に触れてみたいと思い、今回、JFEスチール西日本製鉄所のインターンシップに参加させていただきました。内容としては、主に保全職にフォーカスを当てたものとなっており、配属先の部署にてどのような業務に携わっているかをお聞きし、実際に体験しました。参加する以前に保全職に対して抱いていたイメージとの差を知るとともに、答えのない業務の大変さを学びました。しかしながら大変な分やりがいも大きく、同社における保全職の影響力の大きさを実感できたと思います。



インターンシップ報告会

電気情報工学科

インターンシップを通して

山本 真由

新型コロナウイルスによる影響が色濃く出たこのご時世の中、日新でのインターンシップに現地参加させていただきました。5日間のインターンシップの中で3日程実際の作業を体験させていただきました。高専で行っている専門や物理の実験での経験が活かせることが分かり今後のモチベーションを向上させることが出来ました。また、作業の合間や2日間の座談会を通して社会人の生の声を聞くことができ、向上心を持つこと、能動的に動くことの大切さを教えていただきました。たったの5日間ではありましたが、このインターンシップでの経験は私にとって非常に価値のあるものとなりました。



ホルムアルデヒド放散量試験をする先輩社員の様子



電子制御工学科

夏季インターンシップへの参加

吉岡 玲志

私は夏季休業期間中に対面でIT企業のインターンシップに参加しました。今年もオンラインでの実施や中止を決断する企業がある中、対面で行えることに感謝をするとともに、社員の方々と楽しく会話をしながら実習を進めました。開発部門の実習では動怠管理システムの作成実習や、遠隔での業務を支援するスマートデバイスの体験をさせていただき、協力してシステムを作る喜びや、新たな技術と接する感動を覚えました。また、社員さんとの交流会では、開発、セキュリティなどの各部門の業務内容を教えていただき、私の進路研究における大きな収穫となりました。



スマートデバイスの体験

物質工学科

インターンシップに参加して

石井まとい

私は、10月18日から22日の5日間、宮城県角田市にある、アイリスオーヤマ角田工場でインターンシップに行ってきました。そこで、まだ発売されていない機械の開発に携わらせていただきました。実際の現場では、試作の多さはもちろんのこと、アイリスオーヤマの強みの一つであるユーザー発想を見ることができました。今回のインターンシップでは、想像していた社会人よりももっと厳しい現実を見ることができました。もう少しで社会人となりますが、これからの学校生活をより気を引き締めて生活していきたいと思います。



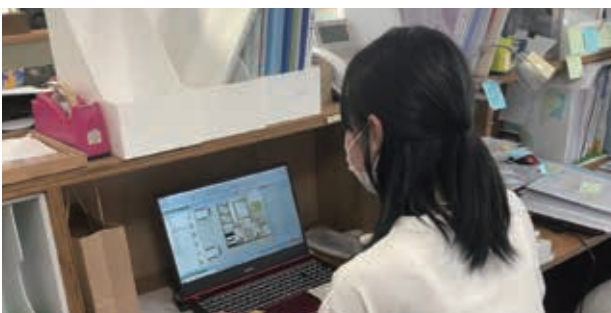
発表会の様子

建築学科

インターンシップに参加して

木下 小雪

私は Moga ハウス高下組のインターンシップに参加させていただきました。五日間を通して設計業務の体験や、実際に建設している現場の見学、リフォーム展示会の設営業務等多くの貴重な経験をさせていただきました。特にCADソフトを使用した設計業務体験では、数十年後の使い方や細かい日射、予算のことを考えなければならず、今後の設計課題に取り組む姿勢を見直すきっかけとなりました。加えて実際の設計業務の内容を詳しく知ることが出来たため、とても有意義な経験となりました。インターンシップで学んだことを設計製図だけでなくその他の学業や今後の人生にも生かしていきたいです。



CADソフトによる設計業務体験



課外活動報告

第56回全国高等専門学校体育大会卓球競技 R3.10.30～31 ならばスカイアリーナ

女子シングルス 1位 2C 土江亜依美
 女子ダブルス 2位 2C 土江亜依美 2A 中島 奈々
 男子シングルス 2位 5E 柳原 武司

第56回全国高等専門学校体育大会陸上競技 R3.9.4～5 キューアンドエースタジアムみやぎ

女子100m 4位 4E 矢田ほのか
 女子200m 5位 2A 竹下みらん
 女子走幅跳 4位 5M 妹原 七虹
 女子4×100mR 3位 1-4 佐々木陽菜 4E 矢田ほのか 2A 竹下みらん
 5M 妹原 七虹

第68回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会 R3.7.29 (メディア審査のみ)

ラジオドキュメント部門 優良	2E 石原 琉翔	2E 河上 遥斗	1-1 井東 佳希
	1-1 大倉 拓真	3C 奥田 結衣	
創作テレビドラマ部門 優良	2E 野田 袖月	2E 下山 虹	1-2 白岩 周也
	1-2 中川真乙花	1-2 足立 凜	1-2 景山 奏
	3C 山崎 晴日	3C 奥田 結衣	2E 松本 颯人
	2E 河上 遥斗	2E 丸山 桐花	2C 山下 舞子
	2A 新井 紀香	1-5 富谷 彩愛	1-5 山辺 珂音
	2A 坂口明日香	2E 石原 琉翔	2E 谷森 充啓
	2E 田原 聡大	1-1 井東 佳希	1-1 大倉 拓真

SDGs動画コンテスト2021 SDGsの達成に貢献するバイオエコノミーとバイオテクノロジー

最優秀賞 3C 野田 悠成 R3.10.13～15 オンライン

第4回リカジョ育成賞準グランプリ・ 日本高専学会活動奨励賞受賞

物質工学科4年 石井まとい

この度、2019年から活動を行っている取組みが評価され日産財団から第4回リカジョ育成賞準グランプリ、そして日本高専学会から活動奨励賞「受賞名：輝けミライのわたし！山陰ガールズプロジェクト」をいただくことができました。今年にはコロナ禍で思うように活動ができず制限されていました。その中でも、中学校での講演会を開催するなど、リケジョ同好会のメンバーで協力し合い、市内の9つの中学校で開催してきたことが評価されました。今後はオンラインを上手く取り入れた実験教材の開発なども行い、withコロナ、afterコロナを見据えた準備を行い山陰のリケジョを増やす活動を同好会メンバーで行っていききたいと思います。

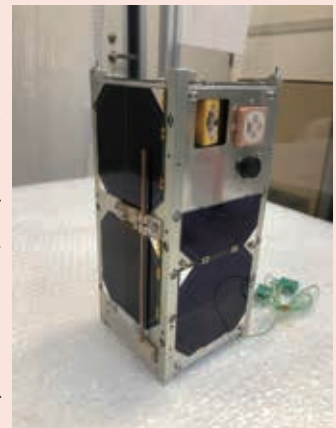


リケジョ活動のメンバー学生たちとの受賞記念写真

木星電波観測技術実証衛星「KOSEN-1」 の打ち上げと衛星からの電波受信状況

情報システム部門 徳光 政弘

高知高専・群馬高専を中心に、米子高専を含む全国10高専で開発した木星電波観測技術実証衛星「KOSEN-1」が、2021年11月9日に内之浦宇宙空間観測所からJAXA・イプシロンロケット5号機により打ち上げられました。KOSEN-1はJAXA・革新的衛星技術実証2号機に選定された実証テーマで、宇宙空間で新技術の実証実験を行います。KOSEN-1の開発には多くの学生が携わり、米子高専は衛星および地上の通信系システムを担当しました。現在、世界中のアマチュア無線家からの協力を得て、KOSEN-1からの元気なビーコン電波が確認されており、本格的な実験へ向けて衛星の状態を監視しているところです。引き続きみなさまから応援いただければ幸いです。



KOSEN-1衛星のフライトモデル

高専ロボコン 2021 中国地区大会を終えて

5M 長島 陸

私たちAチームはみんなからすごいと思われるロボット「ジャグリングロボット」を製作しました。活動時間に制限がある中、チーム一丸となってロボットを製作しました。大会本番では、想定していたパフォーマンスを行うことができなかったものの、ジャグリングに挑戦したことが評価され、特別賞を受賞しました。何でもありととれる今回の課題の中でアイデア出しを繰り返し、難しい課題に挑戦できたことは、チームの成長になったと思います。最後にロボコンに協力して頂いた方々や応援して頂いた方々に深く感謝いたします。今後も応援よろしくをお願いします。



Aチーム製作ロボット

高専ロボコン 2021 中国地区大会とそれまでを振り返って

4D 守山 凜



ロボットの製作の様子

Bチームは、今年は2台のロボットを作成し、なわとび、ボトルフリップ、洗濯物干しの3競技に再挑戦しました。練習では各ロボットで予定したパフォーマンスができていましたが、中国地区大会では満足いくパフォーマンスができず、8位という悔しい結果となりました。この他、チーム全体を見る・取りまとめるという上級生の役割の難しさを痛感する期間でもありました。この経験を今後の進路や卒業研究に活かしたいと考えています。

最後になりますが、ご協力いただいた関係者の皆様、応援していただいた皆様に感謝申し上げます。

第32回全国高専プログラミングコンテスト（自由部門）に参加して

参加学生 5E 加藤 誠、5E 壽山 魁、5E 阿部 竜弥、4E 矢田 ほのか、4E 山根 英子
指導教員 電気電子部門 教授 松本 正己

この夏、電気情報工学科有志が集まり「面接行動」- Web面接支援システム-を開発し、全国高専プロコンに参加しました。このシステムは、Webブラウザから流れる様々な質問動画に答えて面接練習を行うWebプログラムです。特徴として「カラオケ採点」にヒントを得て、感情分析AIによる採点機能を実装しています。7月の豪雨による休校や、9月の登校自粛とワクチン副反応による開発中断など様々な障害が立ちはだかり、正直棄権も頭をよぎりました。本選は敢闘賞という結果でしたが、無事、素晴らしいデモムービー、遠隔プレゼンとデモンストレーション審査を終えることができました。御支援いただきました皆様方にこの場を借りてお礼を申し上げます。



遠隔デモンストレーション審査

第32回全国高専プログラミングコンテスト（競技部門）に参加して

3D 武良 宗一郎、3E 都田 睦陽、3E 藤林 来輝



プロコン競技部門の作品とメンバー

今回私たちが挑戦したのは、与えられたパズル画像から元画像に戻すまでの手順を推測するというものです。この問題を解決するために、私たちは「元画像の推測」と「並び替え手順の推測」の2つのパートに分けてプログラムを製作しました。「元画像の推測」では、隣接するピースを探し出すところが、「並び替え手順の推測」では、探索したマップをどのように記録させるかが、プログラムを製作する上で難しいなと感じました。感想としては、夏休みの間などにメンバー全員で集まって開発をすることができなかったのと、プログラムの動作がなかなか安定しなかったため、あまりいい結果を残せなかったのが非常に悔しいと思っています。

学校見学会を開催しました

教務主事 新田 陽一
中学校連絡専門部会長 竹内 彰継

本校では例年8月にオープンキャンパスを開催しています。しかし、新型コロナウイルス感染症のため、昨年に続き今年もオープンキャンパスを中止せざるを得なくなりました。

そこで、中学生や保護者の皆様方に本校の概要や学科再編について理解を深めていただくために、オープンキャンパスの代替措置として、新型コロナウイルス感染症の減少傾向が顕著となった10月の週末に、3週にわたって学校見学会を開催し、実際に本校を体感していただけるようにしました。その結果、634人もの中学生および保護者の方々に来校していただくことができました。また、アンケートの結果、満足度も99.8%となり、大変喜んでいただくことができました。



学校概要・学科再編の紹介



コース見学の様子

新型コロナワクチンの職域接種を実施しました

本校では鳥取県との強力な連携のもと、8月14日(土)の先行接種を経て、8月21日(土)から10月10日(日)まで(学生対象の追加接種は11月6日(土)まで)の間に新型コロナワクチンの職域接種を実施しました。

職域接種は、本校の学生・教職員とその家族約390名、米子市内にあるYMCA米子医療福祉専門学校の学生、教職員、近隣の企業の職員とその家族約330名、一般の方約1,150名の合計約1,870名が接種しました。

職域接種の実施に当たっては、学校医である山陰労災病院の水田医師のご協力のもと、同病院や鳥取県看護協会等から医療従事者を派遣いただき、実施することが可能となりました。

また、11月1日(月)に山陰労災病院、11月9日(火)にあすなる調剤薬局に対し、今回の職域接種実施協力への感謝状を贈呈しました。贈呈に当たって本校の寺西校長より「新型コロナウイルスが猛威を振るう大変厳しい状況下にも関わらず、皆様のご協力のもと、このように無事に職域接種を実施することができたことに心より感謝申し上げます」と謝意をお伝えしました。

本校では今後も新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じ、学生の学修機会を確保するための環境整備に努めるとともに、近隣企業や教育機関との連携も含めた包括的な地域貢献に取り組んでいきます。



接種会場へ向かう本校学生



山陰労災病院への感謝状贈呈の様子



ISSN 1344 - 5634

米子高専図書館報
第112号令和3年12月 発行
米子工業高等専門学校図書館

「ビブリオバトル」を開催しました

図書館・リベラルアーツセンターでは、「ビブリオバトル」を、11月15日(月)16時10分から合同講義室で開催しました。皆さんは、「ビブリオバトル」を知っていますか？ 公式サイトやYouTubeに動画もあります。この機会に見てみてください。

ビブリオバトルとは？（「知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト」より）

公式ルール

- ①発表参加者が読んで面白かった本を持って集まる。
- ②順番に一人5分間で本を紹介する。
- ③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
- ④全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

たったこれだけのルールで、遊べば読書がスポーツに変わって、本を読むのが楽しくなる！

いろんな本に巡り会えて、どんどん世界が広がる！

そんなコミュニケーションゲームです。

また、紹介の際にはシンプルに本とカウントダウンタイマーだけ。

あとは、ライブでアドリブで本について語ります。

プレゼンの時間を(公式ルールより短い)「3分間」で行うことにして、出場者(バトラー)を全学生から募集したところ、6名の学生がエントリーしてくれました。クラス・名前・紹介図書を発表順に掲載します。どんなバトルになったでしょうか。

5C	大 島 みなみ	『たんぽぽ娘』
3D	加 藤 晃 樹	『時計館の殺人』
3D	加 藤 崇	『源氏物語』
1-5	藤 原 ダイヤ	『ぼくは君たちを憎まないことにした』
3M	田 中 希 颯	『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』
2D	三 井 朱 寧	『Vivy prototype』



図書委員長の開会あいさつ



出場者のプレゼンの様子

当日は、27名の参加者(出場者・観戦者(学生20名、教職員7名))が集まりました。

図書委員長の3C津村さんが司会を務め、図書委員の4M岩崎さんと4C小川くんがタイムキーパーをしてくださいました。他の図書委員も参加してくれました。

出場者が順に一人3分間で本の紹介をした後、ディスカッションの時間も取りました。「どんな時に読みましたか?」「この本と出会ってあなたにどんな変化がありましたか?」など参加者からの質問に答えてもらいビブリオバトルを深めることができました。



出場者のプレゼンの様子



出場者のプレゼンの様子

そして、「一番読みたくなった本」を基準に参加者が投票を行いました。

投票の結果、「チャンプ本」(最優秀賞)には1-5の藤原ダイヤさんの『ぼくは君たちを憎まないことにした』が選ばれました。そして、次点で優秀賞は3Dの加藤晃樹くんの『時計館の殺人』になりました。

★参加者の感想

「どんなトリックなのか気になった。ミステリーが好きのため選んだ。6冊とも今度読もうと思う」、「『推し』という言葉にひかれた」、「普段、フィクションを多く読むが、ノンフィクションの本も読んでみたいと思った」、「初めて聞きに来たが、面白そうだなと思う本が多く、今度読んでみようと思った」など。



投票の様子



出場者の集合写真

★出場者の感想

「いろんな本と出会えてよかった」「普段読まないジャンルについて知れてよかった」と定番の感想をとりあえず書いておきます。色々な人の「好き」が集まった空間はなんとも言えない楽しさがありました。でも意外と感じるのが「自分が発表した本と向き合えてよかった」ということ。発表内容を考えている間に選んだ本のことをもっと好きになれ、参加してよかったと思えました。追伸。みんながチャンプ本を読み終わった頃に感想交流会みたいなのが開いてみたいです。(3D 加藤崇)

今年は去年よりも作品の幅が広く、作者も偏っていませんでした。新しい本を見つけることができ良かったです。前々から読みたかった本をさらに読みたいと思えたり、既に読んだことがある本をもう一度読みたくなったりできたのも良かったです。私が紹介した本は一人でも多くの人に知ってほしいと思っている作品なので、今回ビブリオバトルで紹介できてとてもうれしく思いました。(2D 三井)

ビブリオバトルへの参加は今回で2回目でした。知らなかった本を知れるだけでなく、難しそうだと避けていたジャンルや本のオススメポイント、読みやすい読み方など知ることができ、ビブリオバトルが終わる頃には今回紹介されていた本達が読みたくてしかたありませんでした。

今回は参加者全員がその本と出会ったきっかけ等を知ることができ、とても楽しかったです。(5C 大島)

今回先生にお話をいただいて、初めてビブリオバトルに参加しました。本番はとても緊張しましたが、自分が「他の人にも読んでもらいたい!」と思った1冊を最後まで紹介することができ、さらにチャンプ本にも選んでいただけたのでうれしかったです。また、他のパトラーの方が紹介してくださった本はどれも魅力満載で、私もぜひ読んでみたいと思いました。

ビブリオバトルを通して、今まで自分が読んだことのない、幅広いジャンルの本と出会うことができたのでとてもよかったです。(1-5 藤原)

出場者の中から加藤崇さんに、12月12日(日)に倉吉市で開催予定の全国高等学校ビブリオバトル鳥取県大会へ出場してもらうことになりました。

ビブリオバトルは、来年度も開催したいと思います。今回出場してくれた学生、観戦してくれた学生や、ビブリオバトルに興味を持った学生、皆さんの参加を楽しみにしています。

後期、図書委員長になりました3C津村紘華です。図書委員長として米子高専の図書館の魅力をたくさんの人に伝えられるようにがんばりたいです。

米子高専の図書館はきれいでいろんな種類の本が揃っています。実験のレポートなどの参考文献探しだけでなく、気になっていたあの本も今年話題のこの本も米子高専図書館にはあります。

本を読むだけではありません。図書館には充実した自習スペースもあります。スマホを充電することも可能です。テスト期間には高専一集中して勉強できる場所と言っても過言ではないです。

本が好きな人も、そんなに読まないし本に興味がないという人も、図書館を活用してもらえよう努力していきたいと思います。半年間よろしくお祈いします。

「読書感想文コンクール」の入賞作品を紹介します

図書館では、本科1年生を対象に、国語科の協力を得て、「読書感想文コンクール」を開催しました。学生が自由に選んだ図書について、原稿用紙(400字詰)3枚以上5枚以内で感想文を書き、夏季休業後に提出してもらいましたところ、150作の応募がありました。

1次審査で、各クラスから3～5編が選ばれ、20作が2次審査にノミネートされました。2次審査では、その中から審査員が点数をつけ、下記のように入賞者を選出しました。最優秀賞・優秀賞の作品は、「高い問題意識から著作をとらえ、自分の意見を適切に述べている」、「著者の隠喩的表現を自分なりに解釈していて興味深い」、「(感想文の)文章が巧みである」などの評価点が挙げられました。

11月16日開催の図書館運営委員会で最終審査・決定し、22日に校長室で表彰式を行いました。

最優秀賞				
クラス	名前	題名	読んだ本	著者
1-5	藤原ダイヤ	『ぼくは君たちを憎まないことにした』を読んで	ぼくは君たちを憎まないことにした	アントワーン・レリス 訳：土居佳代子
優秀賞				
1-4	佐々木陽菜	安部公房『砂の女』を読んで	砂の女	安部 公房
佳作				
1-2	遠藤 司	「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」を読んで	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ
1-3	坪井 春花	太宰治『葉桜と魔笛』を読んで	葉桜と魔笛	太宰 治
1-4	波田 祈莉	二十一を二十二にするために	八月の終わりは、きっと世界の終わりに似ている。	天沢 夏月
1-5	齋藤 匠	松村涼哉「15歳のテロリスト」	15歳のテロリスト	松村 涼哉
1-5	三島 幸咲	「僕はそうは思わない」	逆ソクラテス	伊坂幸太郎



校長室での表彰式(読書感想文コンクールおよびビブリオバトル)

最優秀賞と優秀賞の作品(感想文)を掲載します。

最優秀賞

『ぼくは君たちを憎まないことにした』を読んで

1-5 藤原 ダイヤ

二〇一五年十一月十三日のパリ同時多発テロを覚えているだろうか。フランスの爆撃に対する報復として、イスラーム過激派による銃撃、爆撃が同時多発的に発生。死者は少なくとも百三十人にのぼり、多数の負傷者を出した。この惨烈な事件で、Facebookのある投稿が話題となった。それは、このテロで妻を失い、十七か月の息子と二人になった遺族の男性が書いた、テロリストに向けた手紙だ。

「……ぼくは君たちに憎しみを贈ることはしない。……息子とぼくは二人になった。でも、世界のどんな軍隊より強い。……この幼い子供が、幸福に、自由に暮らすことで、君たちは恥じ入るだろう。君たちはあの子の憎しみも手に入れることはできないのだから。」

この本は、手紙の著者であるアントワヌ・レリスさん自身が執筆した、事件後約二週間のドキュメントである。

大切な人を失い、二人になってしまった家族が、悲しみと必死に向き合い、真っすぐに生きていこうとする姿が鮮明に描かれた作品。読んでいて胸がいっぱいになる著者の想いや息子との日々に感化され、私はこの本で、感想文を書きたいと思った。

私は、遺体安置所で著者と妻が再会した場面がとても心に残っている。ガラスの向こうで眠る彼女に、「……出来ればずっと一生ここにいたい。でも、もう行かなくては。……それは、ある父親と息子が忠誠を誓っていた天体の助けなしで立ち上がる話だ。」と言った。

著者は彼女と再会するまで、「三つ以上の単語を話すだけで疲れてしまう」ほど、憔悴しきっていた。だが彼女を前に、自分の記憶は彼女と過ごした美しい日々で溢れていることに気付き、彼女が遺した小さな息子と二人で立ち上がる決意をした。そして、次第に言葉が出てくるようになった著者は、その日の夜、テロリストに向けた手紙を投稿した。

彼女を天体(月)に例えた著者の言葉からは、著者と息子にとって彼女がどれほど偉大で、美しい存在だったかが読み取れる。「月は沈む」けれど、なくなっちはいない。著者を支えたのは間違いなく彼女だ。見えなくても誰よりそばで著者を支え、希望であり続ける彼女の存在を、この場面から強く感じ、私はそれが心に残った。

もう一つ、深く心に残った場面がある。それは、妻を埋葬した日の夜、「ぼくという、かつて存在した、この子の母親を誰よりも愛していた男……の最後のキス」を息子の額にする場面だ。

私ははじめ、なぜ「かつて」「存在した」「愛していた」と過去形にしたのか、どうして「最後」なのか、わからなかった。しばらく考えて、ふと、その部分に妻への愛情が最も強く表れているのではないかと思った。どれだけ願っても、彼女の匂いや体温、心臓の鼓動、何気ない日々の些細な出来事など、時間が経てば、少しずつ忘れてしまう。それを著者はよく理解していた。だから、彼女へ捧げる愛情で、これからの自分は、以前の自分に敵わないと考え、彼女の魂を還したこの日を一つの「最後」にしたのではないかと私は解釈した。そして、そんな著者の姿に、どこまでも妻を想う一途で温かい愛情を見つけ、私はとても切なくて、胸がぎゅっと締めつけられた。

私はこの本を読んで、どうか彼ら家族が、幸福に、自由に生きられますように、と願わずにはいられなかった。悲しみと向き合うと決意しても、どうしようもない恐怖や不安はなくなる。痛々しい感情や姿が繰り返し描かれる。それでも向き合おうとし続ける彼らの強さに、私は切なさや感動で何度も涙がこぼれた。彼らのように、強く生きようとする人たちが報われる世界であってほしいと、私は思った。

「何も許していないし、何も忘れていない」それでも「ぼくは君たちを憎まないことにした」そこに込められた著者の想いや、日々が、考えが、飾らない言葉でストレートに伝わってくるこの本を、私は多く



読書感想文コンクールの入賞作品

の人に読んでほしいと思った。

物事に向き合い逃げないこと、人を想い、自分の人生を生きていくことの、強さと美しさを知った。私がこれから生きていく中で、理不尽な出来事に悲しみ、苦しむことは多々あると思う。そんなとき、私は著者のように、大事なものから目を逸らさずに向き合うことができるだろうか。私は何度も逃げてしまうだろう。それでも、目を逸らすまいと必死に足掻いてみようと思えるのは、この本と出会い、著者たちの姿に強く感化されたからだと思う。私はこの本と出会えてよかった。

藤原さんより

最初に自分の書いた感想文が賞に選ばれたと聞いた時には、“まさか自分が” ととても驚きましたが、素敵な賞をいただけたことをうれしく思います。ありがとうございます。

私が感想文の題材にした「ぼくは君たちを憎まないことにした」という本は、著者アントワーン・レリスさんが体験した実際の日々が描かれています。他の本と比べると、ページ数も少なく、文字も大きい、1時間程度で読み終えてしまうような小さな本です。しかし、そこに込められた著者の想いは何よりも真っすぐ、読んだ人の心に突き刺さります。大切な人を想い、自分自身と向き合い続ける著者の姿は、読者に自分自身と、家族と、周りの人と、改めて向き合うきっかけをくれるでしょう。ぜひ一度、手に取って読んでみてください。

優秀賞

安部公房『砂の女』を読んで

1-4 佐々木陽菜



友人に勧められた安部公房の小説『砂の女』。本を手にとると、表紙が少し不気味だった。砂浜と鴉。この鴉が何を暗示しているのか気になり始めた。そこで私はこの本を読み、読書感想文を書くことに決めた。

この物語は、砂丘へ昆虫採集に出かけた男が、砂で囲まれた一軒家に閉じ込められ、脱出を試みるが部落の人々に妨害されてしまうという話である。サスペンス溢れる展開のなかに人間の在り方を追求した作品となっている。

私は、この小説を読んで印象的だった場面がある。それは、男が砂穴から脱出できる環境だったなか、脱出をしなかったという場面だ。最初は砂穴から脱出する方法ばかり考えていた男だが、最後は「脱出」というものに興味が無くなっている。それよりも、水を製造し、少しでも砂穴の中で快適に住ごすことに必死になっていた。読み進めていくと、男が部落の一員になっているように思った。毎日しなければならぬ砂かき。終わりのないことに熱心になっている。まさに、現代に生きる私たちが社会のシステムに組み込まれていく様子を明確に描写していると感じた。そして、自分の熱中できることや人の役に立つこと、そのような目標を見つけた時、人は極端に自由を制限されていたとしても、希望を持って生きることができる。そのようなことをこの場面から学んだ。

そして、『砂の女』とタイトルにもあるように、この小説では部落を包んでいる「砂」の存在がキーワードとなっていると思う。この砂は、物を侵食し、夜になると固まるという、普通とは違う性質を持ち、少し違和感がある。そこで、私は安部公房が個人的な執念により、私たちの常識の価値観や常識の世界などを侵食してくるように感じた。

また、私は紛れもなく「砂」というものは現実の社会のしくみ、そのものだと思う。ちょっとした気の緩み、状況を受け入れてしまったが最後、じわじわと蟻地獄のように引きずりこまれてしまう。現実の世界と同じではないだろうか。他にも、人はある大きな組織の一員として、生活を支えるかを得るために生きる。社会や会社はそれらの人々に与えられた責務を全うさせるため、逃げ出さないように何かで縛ろうとする。私は、初めは、この物語は自分や現実とは全く関わりの無い、ありえない話だと考えていた。だが、現実の世界でも同じだったことに気づかされた。このように、人生において後戻りの利かない大きな岐路に影響しうる状況過程というのが、すごくリアルに描写されていると感じた。

さらに、男が部落の人々を「灰色の連中」と呼んでいることが気になった。つまり、男は「灰色の連中」と呼び、彼らを馬鹿にしていたのだ。それは結局、自分には昆虫採集という趣味があり、旅行に行くこともできるということを示して、こいつらとは違う、豊かな人生を送っていると思ひ込みたかったのだと思う。そして、男が必死に新種の昆虫を探して図鑑に残そうとする行為も、自分の人生が一粒一粒の小さな砂粒だと思いたくない。その悪あがきだったのだろうと考えた。

最後に、この小説は、比喩表現が多く、また演劇的であったため、非常に読みやすかった。さらに、世界でも高く評価され、評価されているということはどの国・地域においても共通する、人間社会の成り立ちにおける何かを描かれているのだと思うと、とても興味深かった。また、作品を読んで幸せとは何か、自由とは何かを考えさせられた。私は今後、この本から学んだ、自分の潜在的な要求を叶えられるならば環境は関係ないということを生かして、自分の存在意義を見つけられる環境を見つける活動としてコース選択をしていこうと思った。さらに、今この瞬間を大切にしていこうとこの本を読んで感じた。

佐々木さんより

この度は、読書感想文で優秀賞という大きな賞をいただけてとてもうれしく思います。今回私が読んだ作品は安部公房さんの「砂の女」ですが、この作品は、幸福とは何か、自由とは何かをとことん追求しています。この本を読んで、私は、人は目標を見つけた時、極端に自由を制限されていたとしても、希望を持って生きることができるということを学びました。さらに、他の本にもこのように生き方のヒントがたくさん書かれています。ですので、これからも本を通じて、本当の自分らしさを見つけていきたいです。

また、読書感想文を書くにあたり、ただ読むなら楽しいで終わるけれど、そこから自分の内面と向き合い、それを言葉にするのはこんなにも難しいことなのかと実感しました。ですが、本を読み、その感想を書くことは、文章をまとめ自分の視野を広げていく、とても良い機会になりました。これからも多くの本を読んで、物事に対する新しい考え方を学びたいです。

読書感想文コンクールで読まれた本、ビブリオバトルで紹介された本は、図書館にあります(購入手続き中のものもあります)。どうぞ読んでみてください。

《冬季長期貸出(特別貸出)を実施しています》

学生の皆さんへの図書館の貸出期間は通常2週間ですが、12月1日(水)～24日(金)の間に借りた図書は、返却期限を1月15日(土)にしています。

冬季休業を利用してゆっくり本を読んでみてはいかがでしょうか。なお、図書館は12月25日(土)～1月5日(水)は閉館します。良いお年をお迎えください。



図書館(交流フラグ)に学生がデザイン・制作した机を増設(展示)しています

建築デザイン部門 小椋 弘佳

本校では、長期間利用されていなかった「旧ボイラー室」を「ラーニングcommons」へと改修するプロジェクトが進行中です。「旧ボイラー室」は正面玄関、図書館情報センター・前広場、学生寮に隣接します。この好立地条件を活かし、「キャンパス内における学びと憩いの場」として改修することを目指しています。

このプロジェクトは学生や教職員で「Team 米子高専」を構成して、時間帯、季節に合わせた多様な利用を可能とする自主的な創造活動を促す拠点として整備します。学生の皆さんの日常利用に加え、図書館で借りた本をゆっくり読めるスペース、寮生の学習スペース、留学生交流会や卒研・特研発表会、ロボコン・プロコン・デザコン等の課外活動成果発表会、イングリッシュカフェ等の会場としての利用を想定しています。

今年度は、入口の建具取替、内部床、空調、電気設備などを主に改修しています。そのうち、建具、内部床の土間コンクリート打設工事や家具製作は、学生が設計や施工の過程に係わっています。自らの学びの場を自ら創り出す達成感を体験できる機会でもあります。Instagramでも情報発信しています(アカウント名: ynct_lcp)。

家具製作は、4Aの学生が高専祭の科展としても取り組みました。さらに、4Aが家具製作ワークショップを企画し、1年生から5年生まで多くの学生が参加しました。

製作された机は、図書館(交流プラザ)に展示しています(一部は物理実験室前スペースに展示)。ぜひお越しいただき、利用してみてください。

家具製作ワークショップは今後も開催しますので、興味のある人はぜひご参加ください。家具は来年度にはラーニングcommonsに移動します。図書館や前広場と一体として利用できるようになりますのでお楽しみに。



図書館で利用できます



旧ボイラー室外観



床工事



家具ワークショップ_デザイン



家具ワークショップ_模型検討



家具ワークショップ_製作



高専祭_4A旧ボイラー室での科展

図書館からのお知らせ

★図書館では、今年度から、水筒やペットボトルなどきちんとフタを閉められる容器に入った飲み物については、水分補給や熱中症対策の一環として、館内で飲むことを認めています(その他の飲食は従来通り禁止しています)。
飲む際には、図書や施設等を汚損することのないよう注意してください。
皆さんが快適に図書館で読書や勉学に励んだり、リラックスした時間を過ごしたりしていただけたらと思います。

★図書館のウッドデッキ(テラス)側の自動ドアを開放しています。
白砂会館・学生寮側から図書館内へ、また図書館内から白砂会館・学生寮側へ、図書館正面に回ることなく、出入りできます。ただし、強風など悪天候の時は閉鎖します。

上記は、学生の皆さんの要望や意見を基に図書館として検討・実施したものです。皆さんが使いやすい図書館となるよう努めていきたいと思っております(図書館長・スタッフ一同)。

閲覧室 & 交流プラザ限定で持ち込めるもの



※空のペットボトルなどを、トイレおよびメディアラボのごみ箱に捨てないでください。ごみの分別にご協力をお願いします。



図書館の業務・活動等

- 7月6日(火) 鳥取県立図書館から来館・打ち合わせ
- 7月7日(水)、12日(月) 臨時休館(大雨警報による登校禁止のため)
- 7月9日(金) 図書部会(第3回)
- 7月20日(火) 図書館運営委員会(第1回)
- 8月21日(土)～10月10日(日)の土曜日・日曜日
臨時休館(新型コロナワクチンの職域接種会場となったため)
- 8月27日(金) 図書部会(第4回)
- 9月2日(木) 鳥取県立博物館から来館・打ち合わせ
- 9月12日(日) 文化セミナー【中止】(新型コロナウイルスの感染拡大防止のため)
- 9月21日(火)～10月1日(金) 休館(本校のコロナ強化期間の延長に伴うもの)
- 9月30日(木)～10月15日(金) (書面審議) 令和3年度中国・四国地区高等専門学校図書館長会議
- 10月19日(火) 図書部会(第5回)
- 10月22日(金) 第62回中国四国地区大学図書館研究集会(共催、オンライン)
- 10月25日(月) 図書委員会(第2回)
- 11月5日(金) 読書感想文コンクール2次審査(一般ゼミナール室)
- 11月8日(月) 図書委員会(第3回)
- 11月15日(月) ビブリオバトル(合同講義室)
- 11月16日(火) 図書館運営委員会(第2回)
- 11月22日(月) 読書感想文コンクールおよびビブリオバトルの表彰式(校長室)

※記事において、学科等の名称をアルファベットで表記している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…教養教育科、S…専攻科
例えば、「5M」は機械工学科5年生を表しています。

発行：米子高専広報室 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5000 FAX: 0859-24-5009
ホームページ：https://www.yonago-k.ac.jp/ 印刷：東京印刷株式会社